

2021年3月30日
株式会社加古川ヤマトヤシキ

加古川ヤマトヤシキ 『九谷焼 中田一於・博士親子展』のお知らせ

タイトル： 九谷焼 中田一於・博士親子展
会 期： 2021年4月21日(水)～26日(月)＜最終日は午後5時閉場＞
会 場： 加古川ヤマトヤシキ 3階/特設会場
出 品 数： 70点
来場予定： 中田一於氏 2021年4月24日(土)・25日(日)

加古川ヤマトヤシキでは、「九谷焼 中田一於・博士 親子展」を開催いたします。

父 中田一於(なかた かずお)氏のシンプルな印象を持つ作品は、いわゆる九谷焼とは一線を画し、なんとも儂い青色をベースに銀箔によって施された模様が特徴で、その品格と美しさは多くの人を魅了し、まさに青と銀の生み出した奇跡といえます。

銀箔に細工を施し陶磁器の上に張り合わせ、透明度の高い釉薬を塗り焼きあげる技法。酸化で変色してしまう弱点を逆にとり、見事なまでの個性として創り上げ釉裏銀彩(ユウリギンサイ)という技法を確立させました。

中田博士(なかた ひろし)氏は、九谷焼の粘土を用いた磁器でありながら、絵付けは一切せず、フォルムの美しさと白のテクスチャーで魅せ、「白」と「形」を活かすために独自に開発した釉薬で、真珠のようにマットで上品な光沢を放っています。

本展では、親子二人の壺や花入、香炉など70点が会します。
会期中、24日(土)・25日(日)には、中田一於先生もご来場されます。



柴地紫苑釉裏金銀彩 壺



真珠光彩 壺(東京都知事賞受賞作品)

中 田 一 於
陶 歴

1949年 石川県小松市に生まれる
1978年 日本伝統工芸展 入選 (以後 38回)
1982年 日本伝統工芸展 日本工芸会奨励賞受賞
1983年 「伝統工芸三十年の歩み」展 選抜出品
1990年 日本伝統工芸展 文部大臣賞受賞 文化庁買上
1991年 日本伝統工芸展鑑査委員 以後 94、01、08、10、14、17、18年 7回
1993年 「釉裏銀彩壺」ワシントン・スミソニアン機構サックラー美術館の永久保存作品に選ばれる
1996年 国際文化協会主催 現代日本陶磁の秀作アジア展巡回選抜出品
1999年 日本橋三越本店に於いて個展 (以後 5回)
2000年 NHKやきもの探訪「銀華が舞う青の世界」放映
2001年 伝統九谷焼工芸展大賞受賞 県立美術館買上
2002年 石川県指定無形文化財 九谷焼技術保存会会員に認定
日本伝統工芸展特待者出品 (以後 15回)
2003年 日本伝統工芸展五十周年記念展「わざの美」選抜出品
2008年 日本工芸会理事就任
2010年 日本伝統工芸展 日本工芸会保持者賞受賞 北國文化賞受賞
2011年 紫綬褒章受章、石川テレビ賞受賞
2012年 小松市文化賞受賞
2013年 日本伝統工芸展六十回記念「工芸からK O G E Iへ」選抜出品
2015年 第三五回伝統文化ポーラ賞 優秀賞受賞 日本陶芸展招待出品
2016年 日本伝統工芸展出品作品 宮内庁買上
2019年 旭日小綬章受章
2020年 東京国立博物館 表慶館「工藝2020 自然と美のかたち」選抜出品
師 三代 徳田八十吉

現 在 石川県指定無形文化財技術保存会会員
(公社)日本工芸会常任理事
日本陶芸美術協会幹事長、小松美術作家協会理事長

中 田 博 士
陶 歴

1979年 石川県小松市に生まれる
2002年 朝日陶芸展 入選 ('04 '06)
2005年 金沢市工芸展 大賞
2005年 第7回国際陶磁器展美濃 銅賞
2008年 第55回日本伝統工芸展 入選 以後七回
2009年 第50回石川の伝統工芸展 優秀賞
第56回日本伝統工芸展 新人賞
2013年 第54回石川の伝統工芸展 優秀賞
2014年 第55回石川の伝統工芸展 特賞
2015年 第23回日本陶芸展 特別賞・茨城県陶芸美術館賞
第71回現代美術展 美術文化特別賞
第6回菊池ビエンナーレ 入選 ('09)
第56回石川の伝統工芸展 優秀賞
2017年 第58回石川の伝統工芸展 優秀賞
2019年 日本橋高島屋 個展 ('13 '15 '17)
2020年 第76回現代美術展 美術文化大賞
第67回日本伝統工芸展 東京都知事賞
2020年 横浜高島屋 個展 ('10 '12 '15 '18)

■ お問い合わせ	家庭用品	北島・立花・加藤・芝辻	(079-425-1896)
	営業企画部	中村・永江	(079-425-1916)